

年金積立 Jグロース

つみたてJグロース (愛称)

追加型投信 / 国内 / 株式



【ご留意いただきたい事項】

- ◎投資信託は、預金ではなく、預金保険制度の対象ではありません。
- ◎投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、価格変動リスクがあり、お受取金額が投資元金を大きく下回ることがあります。したがって投資元金および運用成果が保証されているものではありません。
- ◎ご購入に際しては、保有期間中の運用管理費用(信託報酬)等の費用がかかります。
- ◎ご購入に際しては、最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」により商品内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。

ご購入の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

インターネットバンキング専用ファンド
お申込み・販売会社は



三菱UFJ銀行

株式会社三菱UFJ銀行
登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

当行の苦情処理措置および紛争解決措置は
一般社団法人全国銀行協会または特定非営利活動法人証券・
金融商品あっせん相談センターを利用します。
全国銀行協会相談室：0570-017109 / 03-5252-3772
証券・金融商品あっせん相談センター：0120-64-5005
受付時間：月～金曜日 / 9:00～17:00 (祝日・12/31～1/3 等を除く)

設定・運用は

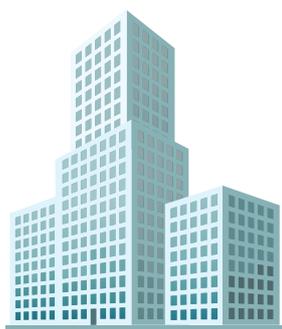
日興アセットマネジメント

日興アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号
加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、
日本証券業協会

利益還元成長株とは？

- II 当ファンドでは、利益還元成長株を中心に投資を行なうことにより、中長期的にTOPIX（東証株価指数）の動きを上回る投資成果の獲得をめざします。
- II 利益還元成長株とは①企業の成長が期待できることに加え、②配当や自社株買いなどの株主への利益還元が期待される株式です。

利益還元成長株のイメージ



利益還元成長株



株主への利益還元に積極的な企業は利益水準の向上を見込んでいる（≒今後の成長を見込んでいる）企業と考えられるため、企業の配当政策などに注目します。

持続的成長・モメンタム成長が期待できる企業に注目します。

当ファンドが着目する利益成長パターン

- II 当ファンドは、他社の参入が困難な独自のビジネスモデルを持ち、景気変動の影響をさほど受けずに「持続的成長」が期待できる企業群、および、景気変動の波を一時的に受けるものの、それを乗り越え成長し続ける「モメンタム成長」の企業群を主な投資対象とします。

企業によって異なるさまざまな利益成長パターン

当ファンドの主な投資対象となる企業群

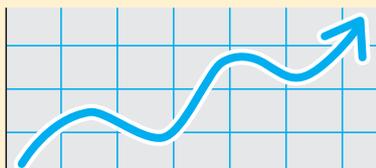
1. 持続的成長



景気変動の影響をさほど受けずに成長を維持する企業

安定的な株価上昇を見込みやすい

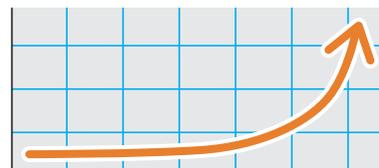
2. モメンタム成長



景気変動を乗り越えながら成長を持続していく企業

安定的な株価上昇を見込みやすい

3. エマージング成長



短期的に急成長する企業

急成長する一方、競争激化により株価上昇が止まるリスクもある

※エマージング成長企業にも投資を行なう場合があります。

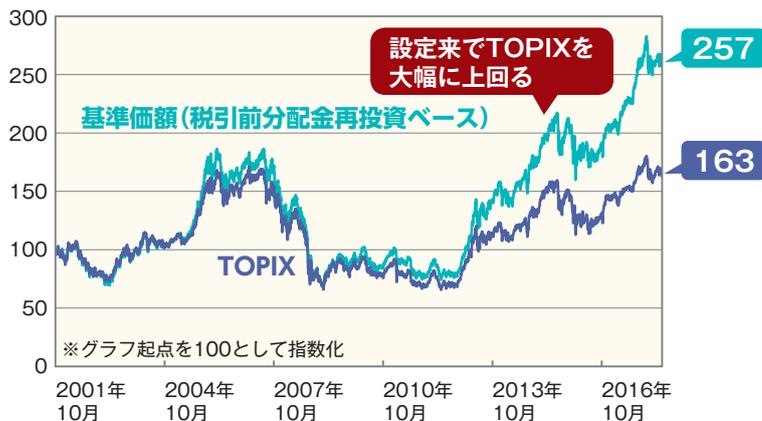
※上記はイメージであり、実際と異なる場合があります。

TOPIXを大きく上回るパフォーマンス

- 当ファンドの設定来のパフォーマンスは、ITバブル崩壊やリーマン・ショックなどの大幅な調整局面を乗り越え、TOPIXを大きく上回って推移しています。
- 特に2009年以降では、リーマン・ショック後の市場回復局面や、アベノミクスを背景に市場が大幅高となった局面を捉え、継続的にTOPIXをアウトパフォームしています。

様々な局面を乗り越え、良好なパフォーマンスとなった「つみたて」グロース

当ファンドの基準価額とTOPIXの推移
(2001年10月31日(設定日)~2018年6月29日)



過去約10年間の基準価額(税引前分配金再投資ベース)とTOPIXの年間収益率

	当ファンド	TOPIX	勝敗
2007年	-13.36%	-12.22%	負
2008年	-45.75%	-41.77%	負
2009年	12.61%	5.63%	勝
2010年	2.58%	-0.97%	勝
2011年	-18.02%	-18.94%	勝
2012年	18.05%	18.01%	勝
2013年	72.11%	51.46%	勝
2014年	12.57%	8.08%	勝
2015年	17.03%	9.93%	勝
2016年	-1.82%	-1.85%	勝
2017年	30.58%	19.69%	勝
2018年	-2.95%	-4.77%	勝

2009年以降、継続的にTOPIXを上回る

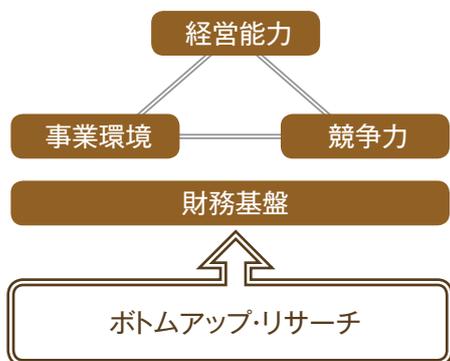
*2018年は6月末まで

良好なパフォーマンスを獲得できた要因とは？

- ファンドマネージャーとアナリストが一体となってボトムアップ・リサーチを行ない、経営能力や競争力などを分析することで、継続した成長が期待できる企業を発掘したことに加え、継続保有するという方針を一貫したことが、良好なパフォーマンスの獲得につながったと考えています。

銘柄選定のポイント

財務基盤をはじめ、経営能力、事業環境、競争力を見極めることを重要なポイントとしています。



奏功した投資戦略の一例

安倍政権成立後の上昇相場



アベノミクスの恩恵が期待されるセクターをオーバーウェイトして良好なパフォーマンスを獲得

大胆な金融緩和	▶ 不動産やノンバンク
機動的な財政政策	▶ 建設など公共投資関連企業
円高の是正	▶ 自動車など輸出関連企業

2015年中ごろからの軟調な相場



更なる円安・米ドル高は難しいと考え、投資の重点を輸出関連企業から内需関連企業に移したことで、下落幅は限定的に

独自のサービス	▶ 内需関連企業
競争力が高い製品	▶ ヘルスケア関連企業

※基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。
 ※税引前分配金再投資ベースとは、税引前分配金を再投資したとして算出した理論上のものである点にご留意ください。
 (信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

ファンドマネージャーからのメッセージ



当ファンドでは、特長のある製品やビジネスノウハウによって持続的な成長が見込まれる企業に注目することで、良好なパフォーマンスの獲得を目指します。

米国経済は、良好な雇用環境の下で、消費や設備投資が順調に拡大しており、今後もしばらくは安定した景気拡大が続くとみえています。日本経済も、企業の設備投資意欲は高く、消費も底堅い動きが続くとみえています。

一方、足元の日本企業の業績見通しは、米中間の貿易摩擦激化懸念などもあって保守的なものになっていると考えており、1米ドル110円前後の為替水準と日米の景気拡大基調が継続されれば、これまでのコスト構造改善による収益力向上などから、業績予想を上方修正する企業が増えるかとみえています。

リスク要因としては、米国の保護主義的な貿易政策を背景に貿易摩擦が激化する可能性や、円高の進行、米国の景気減速の可能性などがあげられます。しかし、株価が下押しする局面では、好業績から生まれる潤沢なキャッシュフローなどを背景に、自社株買いが活発化すると考えています。

当ファンドでは、特長のある製品や独自のビジネスノウハウによって持続的な成長が見込める企業群を探し出し、業績拡大が見込める銘柄を的確に選択することで、良好なパフォーマンスの獲得を目指します。

※上記は、当資料作成時点のものであり、今後変更される可能性があります。

足元で注目する投資テーマ

II 日本政府が推進する、長時間労働の是正や、非正規雇用の処遇改善などを政策の柱とする「働き方改革」に着目するほか、独自のノウハウを有し、継続的な成長が見込まれる企業などに着目しています。

「働き方改革」の推進に貢献できる企業

人材サービス企業や、就業管理などのシステム開発企業のほか、自動化・省力化や業務のアウトソーシングのニーズに対応できる企業にも注目しています。



スマートフォンを通じたデータ収集に関連する企業

スマホを通じたアプローチやビッグデータ収集に多くのビジネスチャンスが存在すると考えられることから、動画広告やデジタル・マーケティングに関連する企業に注目しています。



自動運転・EV化などで必要となる電子部品を製造する企業

自動運転やEV化に関する技術発展に伴ない、自動車向けの電子部品は中長期的に高い需要が見込めることから、この分野に注力する企業に注目しています。



安定成長が見込める特長があるサービス企業

医師向けの情報サイト運営や借り上げ住宅の管理など、独自のビジネスを確立することで安定成長が見込めるサービス企業に注目しています。



技術力が高く、強い競争力を持つ医療機器メーカー

独自の技術で世界シェアを拡大している企業など、競争力が高く、利益率が安定して高い傾向にある企業に注目しています。



※関連銘柄について将来の保有を約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。

ファンドの特色と運用プロセスについて

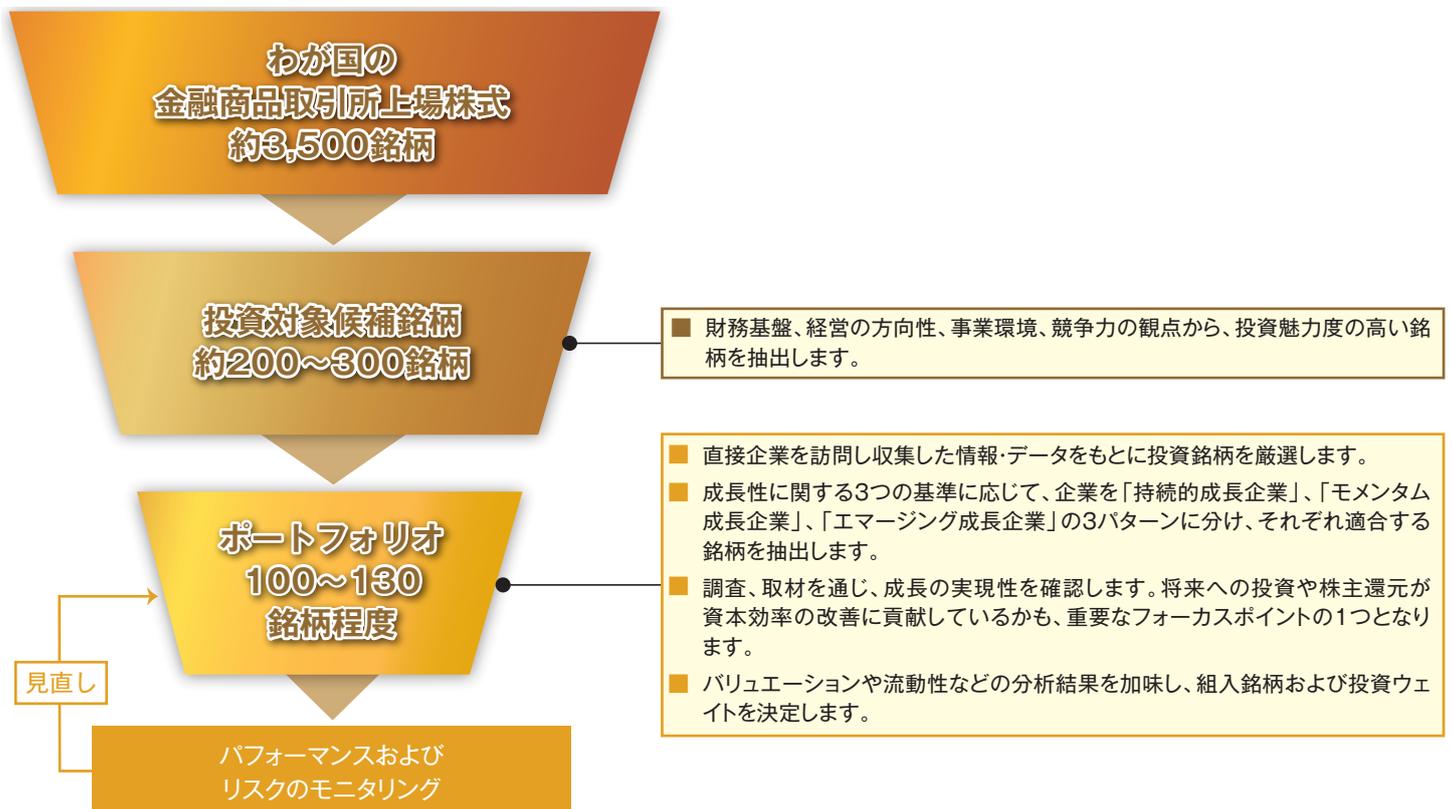
ファンドの特色

- 1 成長性が高く、株主への利益還元が期待できる株式に投資します。**
 - II TOPIX(東証株価指数)の動きを上回る投資成果の獲得をめざします。
 - II 今後の成長が期待できる企業、自己資本利益率が高い企業、株主への利益還元が期待できる企業を厳選し投資します。
- 2 徹底したボトムアップ・リサーチで、勝ち組成長企業の選定を行ないます。**
 - II ファンドマネージャーと豊富な陣容を誇る社内の企業アナリストが、直接企業を訪問し収集した情報・データをもとに投資銘柄を厳選します。
- 3 株式の実質組入比率は、基本的に高位を維持します。**
 - II 株式の実質組入比率(マザーファンドにおいて保有する株式を含みます。)は基本的に高位を維持し、積極的に投資します。

市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

運用プロセスについて

II マザーファンドの運用プロセスは以下の通りです。



※上記は2018年6月末現在の運用プロセスであり、将来変更となる場合があります。
※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

運用実績とポートフォリオの状況

基準価額と純資産総額の推移

(2001年10月31日(設定日)~2018年6月29日)



(2018年6月29日現在)

基準価額
(税引前分配金再投資ベース)
25,648 円
(税引前分配金控除後)
25,403 円

純資産総額
238 億円

<分配金実績(1万口当たり、税引前)>

(2018年6月29日現在)

2014年6月	2015年6月	2016年6月	2017年6月	2018年6月	設定来累計
10円	10円	10円	10円	0円	120円

※基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。

※税引前分配金再投資ベースとは、税引前分配金を再投資したものとして計算した理論上のものであることにご留意ください。

※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

組入上位10業種

(2018年6月29日現在)

	業種	比率
1	電気機器	14.77%
2	サービス業	11.69%
3	情報・通信業	9.63%
4	輸送用機器	8.66%
5	化学	8.01%
6	機械	7.14%
7	精密機器	5.62%
8	小売業	4.76%
9	銀行業	3.43%
10	医薬品	3.16%

組入上位10銘柄 (組入銘柄数:126銘柄)

(2018年6月29日現在)

	銘柄	業種	比率
1	ソニー	電気機器	2.91%
2	キーエンス	電気機器	2.83%
3	マクロミル	情報・通信業	2.54%
4	朝日インテック	精密機器	2.35%
5	日本電産	電気機器	2.31%
6	村田製作所	電気機器	2.19%
7	スズキ	輸送用機器	2.05%
8	ニトリホールディングス	小売業	1.95%
9	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.94%
10	伊藤忠商事	卸売業	1.88%

※「組入上位10業種」「組入上位10銘柄」はマザーファンドの純資産総額比です。

※「組入上位10銘柄」は、個別銘柄の取引を推奨するものでも、将来の組入れを保証するものでもありません。

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

お申込みに際しての留意事項

リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様へ帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

価格変動リスク

●株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。

流動性リスク

●市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。

信用リスク

●投資した企業の経営などに直接間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト(債務不履行)や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落(価格がゼロになることもあります。)し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

為替変動リスク

●外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意事項

■当資料は、投資者の皆様へ「年金積立 Jグロース(愛称:つみたてJグロース)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。

■当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。

■分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。

■投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様へ帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

ご購入の際は、投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください。

※三菱UFJ銀行でお申込みの場合

お申込みメモ

商品分類	追加型投信／国内／株式
購入単位	三菱UFJ銀行における購入単位は以下の通りです。 継続購入プランのお申込みのみ:1万円以上1円単位 Eco通知ご利用のお客さまは、1,000円以上1円単位
購入価額	購入申込受付日の基準価額
信託期間	無期限(2001年10月31日設定)
決算日	毎年6月25日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
換金単位	1円以上1円単位、または1口以上1口単位、または全部。
換金価額	換金申込受付日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して4営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 ※「つみたてNISA」の適用対象となります。 ※配当控除の適用があります。 ※益金不算入制度は適用されません。

手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料	ありません。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額に対して年率0.8856%(税抜0.82%)を乗じて得た額
その他の 費用・手数料	監査費用、組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。 ※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	株式会社三菱UFJ銀行 ほか